

《特集2》 保健学習における心肺蘇生法実習の指導の手引き

(1) 経緯

平成23年9月、さいたま市立小学校6年生の児童が駅伝の課外練習中に突然倒れ救急搬送された後に、死亡するという事故が発生した。教育委員会では、「さいたま市立小学校児童事故対応検証委員会」から次のような提言を受け、「学校における児童生徒事故の再発防止対策」を実施してきた。

【提言】児童生徒に対しても、AEDを含めた応急手当に関する学習機会を設定し、緊急時の対応に備える取組が必要である。

教育委員会では、この提言を受け、平成24年度から、中学校第1学年の保健学習においてAEDの使用を含む心肺蘇生法の学習を行ってきた。平成26年度からは、この学習をさらに充実させ、全ての市立小・中・高等学校において、保健学習における心肺蘇生法実習を行うこととする。

各学校においては、本取組の趣旨を十分理解するとともに、保健学習における心肺蘇生法実習の指導を着実かつ計画的に実施し、学校の安全度を一層高められたい。

(2) 学習指導要領上の取扱いについて

学習指導要領においては、小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、児童生徒の発達の段階を踏まえて保健学習の内容の体系化が図られている。この点を踏まえ、さいたま市では、心肺蘇生法実習についても、系統的な指導計画の作成に十分配慮することとした。

学習指導要領・学習指導要領解説における「AED及び心肺蘇生法」に関する取扱い

小学校学習指導要領 「G 保健」－「(2) けがの防止」

(2) けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。

イ けがの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

【解説より】 (前略)ここでは、すり傷、鼻出血、やけどや打撲などを適宜取り上げ、実習を通して簡単な手当ができるようにする。

【さいたま市】 さいたま市では、小学校第5・6学年で、さらに、心肺停止や大きなけがの場合を想定し、「AEDの機能や設置場所等についての理解」、「緊急時の対応の仕方」、「胸骨圧迫の行い方」を理解できるようにする。

中学校学習指導要領 「保健分野」－「(3) 傷害の防止」

(3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。

【解説より】 (前略)また、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの心肺蘇生法を取り上げ、実習を通して理解できるようにする。なお、必要に応じてAED(自動体外式除細動器)にも触れるようにする。

【さいたま市】 さいたま市では、中学校第1学年で、AEDの使用を含む心肺蘇生法実習を行う。さらに、中学校第2・3学年でも、可能な限り実習を繰り返し、一層の定着を図る。なお、実習は、JRC蘇生ガイドライン2015に基づいて行うものとする。

※ JRC蘇生ガイドライン:日本蘇生協議会(JRC)の会員である学会員から構成するガイドライン作成委員会が、国際蘇生連絡委員会(ILCOR)による2015 Consensus on Science with Treatment Recommendations (CoSTR)に基づいて作成した救急蘇生のためのガイドラインである。

(財団法人 日本救急医療財団ホームページより)

高等学校学習指導要領「保健」－「(1) 現代社会と健康」

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

オ 応急手当

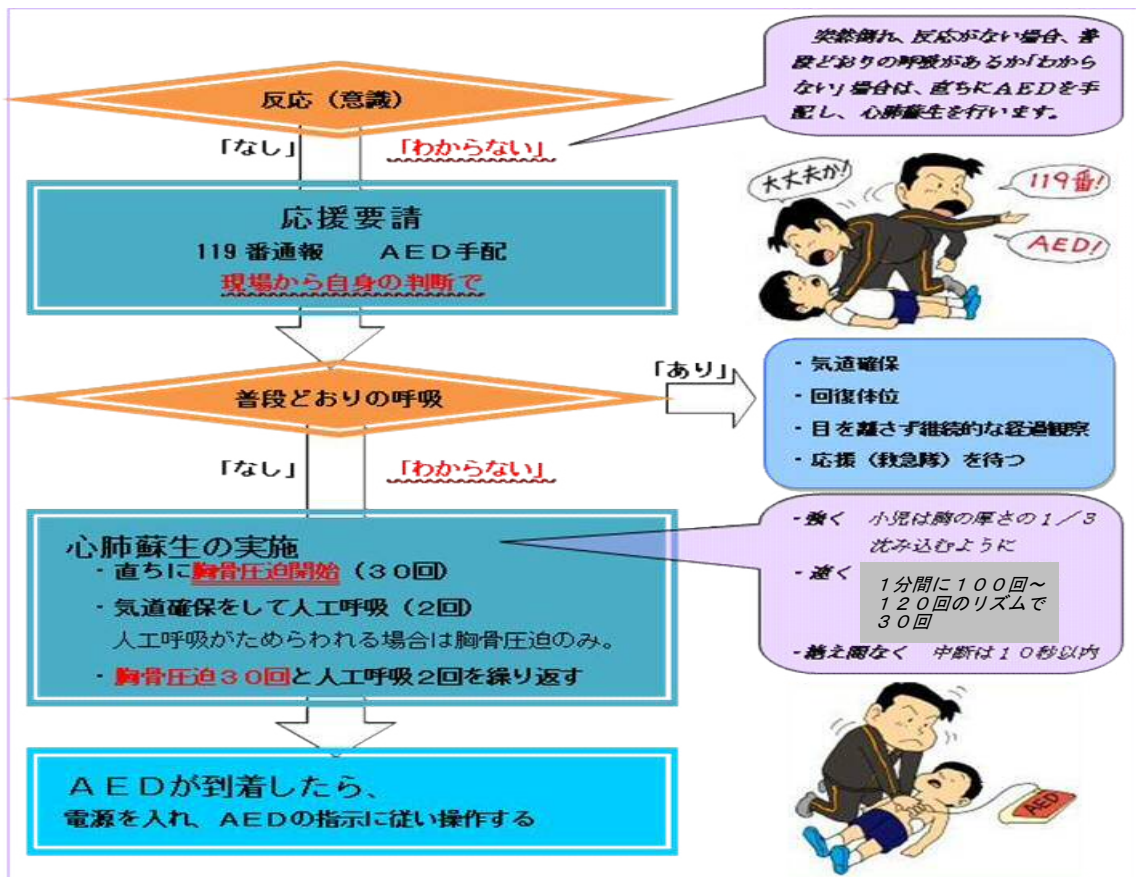
適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。

【解説より】 (前略) 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であることを理解できるようにする。その際、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの原理や方法については、実習を通して理解できるよう配慮するものとする。なお、指導に当たっては、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、「体育」における水泳などとの関連を図り、指導の効果を高めるよう配慮するものとする。

【さいたま市】 さいたま市では、高等学校入学年次において、AEDの使用を含む心肺蘇生法実習を行う。さらに、その次の年次以降においても、学校の実態に応じて実施に努め、一層の定着を図る。

「傷病者発生時における判断・行動チャート」

指導にあたっては、本チャートを効果的に活用し、指導方法の工夫改善を図る。



(3) さいたま市が目指す児童・生徒像

○中学校第1学年段階で、全ての生徒がAEDの使用を含む心肺蘇生法を行うことができる。

【心肺蘇生法実習の年間指導計画への位置付けについて】

さいたま市では、中学校第1学年段階で、全ての生徒がAEDの使用を含む心肺蘇生法を行うことができるようにするために、小学校段階から、保健学習において、系統的・計画的に、発達の段階に応じた「心肺蘇生法実習」を実施する。また、高等学校においても、継続して実施する。

指導に当たっては、さいたま市が作成した「さいたま市立学校児童生徒事故等危機管理対応マニュアル」「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」 「同 解説」及び各学校の「学校における児童生徒事故の再発防止対策」の目的を十分理解し、全ての児童生徒が、心肺停止等の事故発生時に迅速かつ最善の行動を取ることができるようにする。

【心肺蘇生法実習の年間指導計画への位置付けと学習内容について】

校種・学年	関連する教科・領域、単元・実施時間	必ず取り扱う学習内容
小学校 第5学年	○体育科 G保健 (2) けがの防止 イ けがの手当 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの機能や設置場所等についての理解 ・緊急時の対応の仕方 ・胸骨圧迫の行い方
小学校 第6学年	○体育科 G保健 (3) 病気の予防 オ 地域の様々な保健活動の取組 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	
中学校 第1学年	○保健体育科 (保健分野) (1) 「心身の機能の発達と心の健康」 ア 身体機能の発達 (器官の発育、機能の発達) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用を含む心肺蘇生法の行い方
中学校 第2学年	○保健体育科 (保健分野) (3) 「傷害の防止」 エ 応急手当 (心肺蘇生等) <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">学校の実態に応じて実施に努める。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年と同様
中学校 第3学年	○保健体育科 (保健分野) (4) 健康な生活と疾病の予防 カ 個人の健康を守る社会の取組 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">学校の実態に応じて実施に努める。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年と同様
高等学校 入学年次	○保健体育 (保健科目) (1) 「現代社会と健康」 オ 応急手当 (ウ) 心肺蘇生法 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用を含む心肺蘇生法の行い方
その次の 年次以降	○保健体育 (保健科目) (2) 「生涯を通じる健康」 ウ 様々な保健活動や健康 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">学校の実態に応じて実施に努める。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年と同様

繰り返し、学習することで、知識と技能の定着を図る。

小学校第5学年「けがの防止」の指導例

1 単元名 けがの手当（保健）

2 本時の学習と指導（5／5時）

(1) 本時の目標

- 大きなけがの場合の対処法について、実習を通して、進んで取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- 大きなけがの場合の対処法や、AED・心肺蘇生法について理解することができるようにする。【知識・理解】

(2) 準備 心肺蘇生トレーニングキット、AED、ワークシート、掲示資料、映像資料、テレビ
ASUKAモデル、DVD「たたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー！！」

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（指導○ 評価規準◆）	資料・用具 評価方法
導入 7分	1 前時で学習したけがの対処について想起する。	○本時は、前時の学習の発展として、命にかかわるような大きなけがが発生した際に、どのような行動をとればよいのかを学習することを知らせ、学習に見通しをもたせる。	前時の資料
	2 心臓突然死について知る。		DVD第1話
展開 30分	3 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大きなけが（心肺停止）の場合には、どのような行動をとればよいのだろう。</div>		掲示資料
	4 大きなけが（心肺停止）をした人を発見した時の行動について話し合う。	○本時では、次の状況について考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・放課後、校庭で倒れている人を発見した。 ・声をかけたが、反応がない。</div>	
	5 どのような対応をすればよいか知る。 ・大きな声で助けを呼ぶ ・通報・AED手配	○ワークシートに自分の考えを書き、全体で確認する。 ○反応（意識）や普段どおりの呼吸の確認がよく分からない場合は、次の行動に進んでよいことを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「119番とAEDお願いします。」</div>	ワークシート ASUKAモデル 心肺蘇生トレーニングキット
	6 心肺蘇生トレーニングキットを展開する。	○すぐに大きな声で助けを求めることが救命の第1歩であり、大切であることを伝える。	DVD第2話
	7 胸骨圧迫の手順について確認し、練習する。 ・呼吸の確認・胸骨圧迫	○DVDを視聴させ、ペアで交代しながら、ポイントを確認する。 ◆胸骨圧迫の練習に進んで取り組もうとしている。【関】	AED 行動観察 発言
	8 AEDの目的や機能について知る。	○AEDの目的や機能、校内設置場所について確認させる。	
	9 緊急時の対処法を確認する。	○全体で再度3つのSTEPについて確認させ、緊急時の対処法についての理解を深められるようにする。	
	10 本時の学習のまとめをする。 ワークシートに記入する。 ・分かったこと ・考えたこと	○ワークシート記入時には、積極的に机間指導を行い、児童の記入内容を確認し、個別に言葉を掛ける。 ○実際に大きなけがが発生したときには、周囲の状況をよく確認し、自身の安全を最優先に、落ち着いて対処することが大切であることを知らせる。 ○小学生は、スキルの習得よりも命の大切さ、共助の精神についての理解が重要であることを伝える。 ◆大きなけがの場合の対処法や、AED・心肺蘇生法について理解している。 【知・理】	ワークシート 発言

(4) その他 資料及び配慮事項

授業後、実際に校内のAED設置場所に行き、設置状態を確認する。

小学校第6学年「病気の予防」の指導例

1 単元名 病気の予防（保健）

2 本時の学習と指導（5／5時）

(1) 本時の目標

- ・ 大きなけがの場合の対処法について、実習を通して、進んで取り組むことができるようにする。
【関心・意欲・態度】
- ・ 大きなけがの場合の対処法や、AED・心肺蘇生法について、実際の場面を想定した実習を通して、理解することができるようにする。
【知識・理解】

(2) 準備 心肺蘇生トレーニングキット、AED、ワークシート、掲示資料、映像資料、テレビ、ASUKAモデル、DVD「たたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー！！」

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（指導○ 評価規準◆）	資料・用具 評価方法
導入 7分	1 前時で学習した地域の様々な保健活動の取組について想起する。 2 心臓突然死について知る。	○本時は、5年生での実習をもとに、前時の学習の発展として、校外で命にかかわるような大きなけがが発生した際に、どのような行動をとればよいのかを学習することを知らせ、学習に見通しをもたせる。	前時の資料 DVD第1話
展開 30分	3 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">大きなけが（心肺停止）の場合には、どのような行動をとればよいのだろう。</div>		掲示資料
	4 大きなけが（心肺停止）をした人を発見した時の行動について話し合う。	○本時では、次の状況について考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・放課後、公園で倒れている人を発見した。 ・声をかけたが、反応がない。</div>	
	5 どのような対応をすればよいか知る。 ・大きな声で助けを呼ぶ ・通報・AED手配	○ワークシートに自分の考えを書き、全体で確認する。 ○反応（意識）や普段通りの呼吸の確認がよく分からない場合は、次の行動に進んでよいことを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「119番とAEDお願いします。」</div>	ワークシート ASUKAモデル 心肺蘇生トレーニングキット
	6 心肺蘇生トレーニングキットを展開する。	○校外においても、すぐに大きな声で助けを求めることが救命の第1歩であり、大切であることを伝える。	DVD第2話
	7 胸骨圧迫の手順について確認し、練習する。 ・呼吸の確認・胸骨圧迫	○DVDを視聴させ、ペアで交代しながら、胸骨圧迫を続けさせる。 ◆胸骨圧迫の練習に進んで取り組もうとしている。【関】	AED 行動観察 発言
8 AEDの目的や機能について知る。	○AEDの目的や機能、地域の主なAEDの設置場所について再度確認させる。		
9 大きなけがの発生場面を想定し、緊急時に対処法について体験する。	○事故発生時を想定し、緊迫した雰囲気の中で、緊急時の対処法について体験させるようにする。 ○全体で再度3つのSTEPについて確認させ、緊急時の対処法についての理解を深められるようにする。		
整理 8分	10 本時の学習のまとめをする。 ワークシートに記入する。 ・分かったこと ・考えたこと	○実際に大きなけがが発生したときには、周囲の状況をよく確認し、自身の安全を最優先に、落ち着いて対処することが大切であることを知らせる。 ◆大きなけがの場合の対処法や、AED・心肺蘇生法について理解している。 【知・理】	ワークシート 発言

(4) その他 資料及び配慮事項

授業後、実際に校内のAED設置場所に行き、設置状態を確認する。

中学校第2学年「傷害の防止」の指導例

1 単元名 「傷害の防止」(応急手当の意義と実習)


2 本時の学習と指導(1/2時間)

(1) 本時の目標

- ① 応急手当の重要性に気付き、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ② 中学生でも適切な手当ができることを理解することができるようにする。【知識・理解】

(2) 準備 掲示資料、ワークシート、AED(1台)、DVD

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点(指導○ 評価規準◆)
導入 10分	1 集合・挨拶・出席確認・健康観察	○元気に挨拶させる。 ○一人ひとりの様子を確認する。
	2 本時の説明	○いつでも、どこでも、誰もが直面する可能性があることを理解させ、真剣に考える雰囲気をつくる。
	3 本時の課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">倒れている人を見たとき、私たちには何ができるのだろう。</div>	(教師の経験談、DVD視聴、養護教諭の話など)
展開 30分	4 グループ学習 ・個人の考えをまとめる。 ・班の意見をまとめる。	○自分たちには何ができるのか自分のできることを考えさせる。 ○個人で考えたことをワークシートに記入させる。 ○グループ内で意見を交換し、班としての意見をまとめる。 ○その場に居合わせた人が適切な手当をしなければならぬことに気付かせる。
	5 心肺蘇生法とAED 心肺蘇生法の手順とAEDの使い方の説明を聞く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">①電源を入れる。 ②電極パッドを倒れている人に貼り付ける。 ③コネクタを差し込む。 ④指示に従い「電源ボタン」を押す。 (器械によっては手順を省くものもある)</div> 	○生徒の発表を受け、心肺蘇生法の意味とAEDの効果について板書やカードなどで示して理解させる。 ○心肺蘇生法の手順について、図を用いて説明し、理解させる。 ○AEDの適切な使用方法について、実物を見せながら説明し、理解させる。 ○ワークシートに手順を記入させる。 ○中学校では、より正確に心肺蘇生法を行うことができるようになることを目指すことを伝える。 ◆応急手当の重要性に気付き、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【関・意・態】
整理 10分	6 本時のまとめ ・ワークシートに感想を記入し、発表する。	○適切な応急手当は命を救うことを知らせる。
	7 次回の予告 ・心肺蘇生法の実習を行う。	◆中学生でも適切な手当ができることを理解している。【知・理】

(4) その他 資料及び配慮事項

- ・心肺蘇生法の手順とAEDの使い方については、ビデオ視聴でもよい。
- ・中学生が応急手当を行い、命を救った等の新聞記事があるとよい。

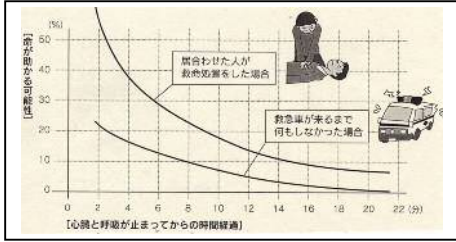
3 本時の学習と指導（2／2時間）

(1) 本時の目標

- ① 仲間と協力し、意欲的に実習に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- ② 応急手当について、実際の場面を想定して考えることができるようにする。 【思考・判断】

(2) 準備 ワークシート、訓練人形リトルアン（7体）、訓練用AED（6台）、アルコール、脱脂綿

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（指導○ 評価規準◆）
導入 10分	<p>1 集合・挨拶 ・出席確認・健康観察</p> <p>2 前時の確認 (心臓と呼吸が止まってしまっ からの時間経過と命が助かる可 能性の相関図)</p>	<p>○図1を提示し、素早い応急手当が必要であることを理解させる。</p>  <p>・救急車が到着するまでに、さいたま市は約8分かかることを理解させ、救急車到着までにできることを考えさせる。</p> <p><図1 さいたま市消防局応急手当講習会テキストより></p>
展開 30分	<p>3 本時の課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>中学生でも適切な手当てをすれば、人の命を救うことができるのだろうか。</p> </div> <p>4 心肺蘇生法の手順の確認</p> <p>5 班ごとの心肺蘇生法の実習</p> <p><役割分担></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習者・応援者（救急車要請） ・時計係・手順確認係 <p><手順></p> <ol style="list-style-type: none"> ①周囲の状況の観察 ②意識の確認 ③応援の要請 <ul style="list-style-type: none"> ・119番通報、AEDの手配 ④呼吸の確認 ⑤胸骨圧迫 <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸ができる場合は、30：2で胸骨圧迫と人工呼吸を加える。 ⑥AEDの装着 <ul style="list-style-type: none"> ・心電図解析・電気ショック 	<p>○教師が模範を行い、前回のワークシートを用い、手順を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、大きなジェスチャーで演示する。 ・全員が教師の演示を見られる隊形を工夫する。 <p>○全員が実際に想定して、真剣に実習を行う雰囲気をつくる。</p> <p>○順番を決め、より正確に実習が行えるように指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の班との間隔を大きくとるなど配慮をする。 ・計時はスピードを競うものではないこと。あくまでも、発見からAEDの使用まで、どのくらいの時間がかかるのかを体験させる。 ・手順確認係は、チェックシートを用い、確認させる。 <p>○胸骨圧迫のテンポは、1分間に100回～120回のリズムで行うよう、また、圧迫の力は、胸の厚さの3分の1沈みこむよう圧迫することを助言する。</p> <p>○AEDの電気ショック後、救急隊に引き継ぐまで、又は傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで、胸骨圧迫から心肺蘇生を続けることを説明する。</p> <p>◆仲間と協力し、意欲的に実習に取り組もうとしている。 【関・意・態】</p>
整理 10分	<p>6 本時の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに感想を記入し、発表する。 	<p>○中学生でも知識と技術と人を助けたいという気持ちがあれば、救える命があることを理解させる。</p> <p>○心停止はほっておけば短時間で死に至るので、完璧ではなくても救命処置を行えば、救命の可能性が高まることを確認すると同時に、救命処置を行っても救えない命もあるという事実を知り、ストレスを抱えた場合は、周囲の大人に相談するように伝える。</p> <p>◆応急手当について、実際の場面を想定して考えている。【思・判】</p>

(4) その他 資料及び配慮事項

- ・心肺蘇生法の手順については、さいたま市消防局「応急手当講習テキスト」抜粋を参照する。
- ・訓練人形リトルアンや訓練用AEDの台数の確保について、近隣中学校や消防局と連携を図る。

高等学校入学年次「応急手当」の指導例

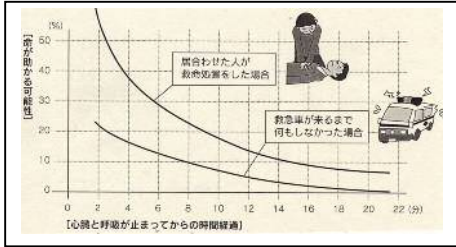
1 本時の学習と指導

(1) 本時の目標

- ① 応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができるようにする。【思考・判断】
- ② 応急手当の意義や心肺蘇生法の手順を理解することができるようにする。【知識・理解】

(2) 準備 ワークシート、訓練人形リトルアン（7体）、訓練用AED（6台）、アルコール、脱脂綿

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（指導○ 評価規準◆）
導入 10分	<p>1 集合・挨拶・出席確認・健康観察</p> <p>2 本時の説明</p> <p style="text-align: center;">(心臓と呼吸が止まってしまったからの時間経過と命が助かる可能性の相関図)</p> <p>3 本時の課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・応急手当が必要な場面に遭遇した時に、とるべき行動を考えることができるか。</p> </div>	<p>○落ち着いた雰囲気、素直な気持ちで取り組むことができるようにする。</p> <p>○図1を提示し、素早い応急手当が必要であることを理解させる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>・救急車が到着するまでに、さいたま市は約8分かかることを理解させ、救急車到着までにできることを考えさせる。</p> <p>＜図1 さいたま市消防局応急手当講習会テキストより＞</p> <p>○誰もが遭遇する可能性があるという緊張感をもたせる。</p> <p>○自分たちができる行動を考えさせる。</p> <p>○小学校、中学校で学習したことをもとに、高等学校では、より実践に即した形で学習することを伝える。</p>
展開 30分	<p>4 心肺蘇生法の手順の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、大きなジェスチャーで演示を行う。 <p>5 班で、心肺蘇生法の実習</p> <p>＜役割分担＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習者・応援者（救急車要請） ・時計係・手順確認係 <p>＜手順＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①周囲の状況の観察 ②意識の確認 ③応援の要請 <ul style="list-style-type: none"> ・119番通報 ・AEDの手配 ・先生へ連絡 ④呼吸の確認 ⑤胸骨圧迫 <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸ができる場合は、30：2で胸骨圧迫と人工呼吸を加える。 ⑥AEDの装着 <ul style="list-style-type: none"> ・心電図解析、電気ショック ⑦胸骨圧迫 	<p>○教師が模範を行い、前回のワークシートを用い、手順を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD等を用いての意識付けや流れの確認をすることも有効である。 ・教師は、大きなジェスチャーで演示する。 ・全員が教師の演示を見られる隊形を工夫する。 <p>○全員が実際に想定して、真剣に実習に取り組むよう緊張感をもたせる。</p> <p>○役割を決め、より正確に実習が行えるように指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の班との間隔を大きくとるなど配慮をする。 ・計時はスピードを競うものではないこと。あくまでも、発見からAEDの使用まで、どのくらいの時間が分かるのかを体験させる。 ・手順確認係には、チェックシートを用いて、確認させる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">心肺蘇生の確認チェックシート内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 周囲の安全を確認できる。 ② 倒れている人に呼びかけることができる。 ③ 友人や他人に応援要請ができる。 ④ AEDの設置場所を把握している。 ⑤ 119番通報で、場所を伝え、口頭指導に従い動くことができる。 ⑥ 胸とお腹の動きを見て、呼吸をしているか確認ができる。 ⑦ 人工呼吸ができる。 ⑧ 心臓の位置を知り、胸骨圧迫ができる。 ⑨ 交代をしながら心肺蘇生を継続してできる。 ⑩ AEDを正しく使用できる。 </div> <p>○AED電気ショック後、救急隊に引き継ぐまで、又は傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで、胸骨圧迫から心肺蘇生を続けることを説明する。</p> <p>◆応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択している。【思・判】</p>
整理 10分	<p>6 本時の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイスタンダーの意義を確認する。 ・ワークシートに感想を記入し、発表する。 	<p>○バイスタンダーが、いざという時に安全に配慮しつつも心肺蘇生を遅延なく実践しなければならぬことを理解させる。</p> <p>※バイスタンダーとは救急現場に居合わせた人（発見者、同伴者等）</p> <p>○心停止はまっておけば短時間で死に至るので、完璧ではなくても救命処置を行えば、救命の可能性が高まることを確認すると同時に、救命処置を行っても救えない命もあるという事実を知り、ストレスを抱えた場合は、周囲の大人に相談するように伝える。</p> <p>◆応急手当の意義や心肺蘇生法の手順を理解している。【知・理】</p>

(4) その他 資料及び配慮事項

- ・心肺蘇生法の手順については、さいたま市消防局「応急手当講習テキスト」を参照する。

保健学習における心肺蘇生法実習

Q & A



Q なぜ、心肺蘇生法実習を学校で授業として行うのですか？

A 日本では、年間7万人が心臓突然死で亡くなっています。これは、交通事故の10倍以上の人数です。これらの方を救命するために、心肺蘇生法がより広まることが期待されています。さいたま市では、心肺蘇生法実習を教育課程に位置付け、保健の授業として、発達段階に応じて、系統的・継続的に学んでいきます。さいたま市の小学校第5学年から高等学校第3学年までの約6万人の児童生徒が心肺蘇生法について、毎年、繰り返し、学習していくことで、学校内だけでなくさいたま市の安全度をより一層高めることにつながります。加えて、児童生徒にとって、心肺蘇生法の学習を通じて、自助・共助の精神と、命の大切さを学ぶ機会にもなります。

Q 心肺蘇生法を教えたり、行ったりすることに資格や免許は必要ないのですか？

A 心肺蘇生法は医療行為ではないので、教えたり、行ったりすることに特別な資格や免許は必要ありません。また、2004年からは、厚生労働省通知により、一般人でもAEDの使用が可能となりました。

Q 授業では、何を教えればよいのですか？

A 中・高等学校では、AEDの使用を含む心肺蘇生法の習得を目指します。確実な心肺蘇生技術の習得を目指すので、訓練用AEDと訓練用人形を使用します。中学校では、胸骨圧迫とAEDの操作、高等学校では、これらに加えて人工呼吸の習得も目指します。互助・共助の精神、地域での自らの役割なども考える機会も提供します。

小学校では、AEDや心肺蘇生法の意義について、体験を通じて理解させます。そのため、簡易心肺蘇生トレーニングキットを使用します。また、小学校では、命の大切さや、人を助けようという気持ちを育てることも重視しています。



Q 授業に参考となる資料はありますか？

- A 学校の校務用コンピュータに、以下の資料が、掲載されています。御活用ください。
- ・平成25年度及び平成26年度「ASUKAモデル」実践校学習指導案（小学校）
 - ・「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～解説」及び「同 DVD」

Q 小学校での指導のポイントは何ですか？

A 心肺蘇生トレーニングキットを使った体験と、体験を通じた知識・理解のバランスが大切です。内容については、第5・6学年で実施するので、軽重をつけるなどの工夫も考えられます。命の大切さや、AEDと心肺蘇生法の基礎的な知識を体験を通して身に付けさせて、中学校につなげていきます。自宅に戻り、心肺蘇生法を学んだことを家族や友達と共有することも有効と思われます。また、小学校では、自身の安全の確保が最優先であることも重要な点です。

Q 中学校での指導のポイントは何ですか？

A 訓練用AEDと訓練用人形を使用し、中学生でも適切な手当てができることを体験させます。さいたま市消防局のテキストのグラフや配付されたDVDを効果的に使用し、理解を深めることが大切です。また、実習では、役割分担を明確にし、実際の場面を想定した真剣な雰囲気を作ることも重要です。なお、救えない命もあるという事実や、ストレスを抱えた場合は、周囲の大人に相談することを伝えておくことも大切です。

Q 高等学校での指導のポイントは何ですか？

A 中学校で行った学習をもとに、幾つかの具体的な事例に対して、適切な対応ができるかどうか、考えさせることが大切です。また、対応が適切だったかどうかをグループで検証したり、対応スキルの向上に努めたりするなどの工夫が考えられます。胸骨圧迫の中断を最小限にした人工呼吸の習得も目指します。